



花江年表

八

伊地知文庫  
文庫20  
383  
8



武江年表卷之八 伊地知氏書冊

文政元年戊寅 四月廿二日改元



米穀こめ去年より豊饒ありし市中いちゆうの老おきな公限こうげん小夜こよ一買いちかひて貯金ちりきん三百さんひゃくを命いのちせらる

○三月八日画人谷文一卒 三十二天号痴状文鬼の男 三月の以市中いちゆう一確いちかくを售うり小老せうら軀み出でる

よこれ小鯛こたうまの夜よを痛いたむとい小娘こなご言いはる ○五月廿日より十日迄葺屋町都傳内

芝居しばいありき考こう言いはる ○五月廿八日浪谷なみのや乃玄返のげんげん回まわりの中なかより空辺そらべの女童こども方かた

二寸半にすんぱんの金色きんいろの亀かめをゆり ○六月十日式分判通用始はじる ○八月三田通寺町

又また其その為ため改かへり小亀こかめをゆり ○八月より十月まで回向院くわうえんにて紀州道成寺きしゅうだうじょう親世おんせい

寺開帳てらあきぢょう 雲空うんくう小徳ことく娘むすめ鬼女おにめありし時の ○九月二日儒師じゆし毎ま琴かみ乃人卒 六十八才山本

○十月六日念佛ねんぶつ乃徳のとく本上人ほんしやうじん寂小石川しやくせうせきがわ一いち院えんニ葬まうる 六十一歳と云上人の紀州日言乃志

四才の時隣家の小児俄とがあ病びやうて失しりつり女をを感かへ念仏ねんぶつ三昧さんまいにて女子をの時出でるを修しゆる 虎人こらにんを化くわ奪だつる近年こふねんの頑ごん植ちくりて生なれ状じやう人の初はつめありけり

弓のしりやの屋敷の上の釜の下枝をまうりとまゐりめけりて 仍若徳本

○十月十七日西小大風夕八ッ半時迄浪至隨乃の曼茶羅堂より出火飛川

戸町(出世辺)僅ふ焼けて中の々は松浦度の中屋敷(飛本所)刻下より

吉田町吉岡町三日四日の日焼枝多深川様江の辺扇橋向六万坪の隙ふ

く積る一口は法恩寺橋通りへ飛ぶ砂村連焼亡以堅一里の隙あり○同十九

日夜九時芝青松と焼亡○武江披沙成 写本太田蜀山著江戶志江戶砂子を傳乃  
出漏るるを幸集れりあり

○江戸名家墓石一覽刊行 中古より江戸名家宗廟設卒年月墓石を集むる古丁目の  
書林伊世屋平次郎早花橋村の編よりと搜索を勤め精む下板本  
今傳りて

○十月廿一日司馬江漢峻卒 七十二才不言人と号し江戸にて西洋画をうり仍りる  
文由りてて其傳の紀をあらはし西遊録に刊せり

文政二年 己卯 四月閏

正月廿一日大雪○二月龜田勝高為高滿泉岳寺義士の墓辺(碑)を建て

○二月八日 初年 飯倉町六丁目へ出火二町余焼亡同夜八ッ半時新着町より

出火町跡左邊門町竹川町痕座四丁目尾張町三十万堀中丁目より二丁目まで

築地井伊屋古藩辺より燃る南小十町除東西四丁程焼亡翌日昼四時迄

火之火消人豆の喧嘩あり 八十才紅翠衣系藍と号し振巻  
住せり傳世繪中の言まあり

○詩人栢木如亭卒 年七名祖  
林門也 ○二月廿五日より飛戸天満宮法性坊社開帳

三月廿日燒肉より林田位人青木何某百餘 名  
女の子の紙一紙の字をまけ ○二月廿九日夜九時本町より出火

本石町室町品川町小鞆町日本橋一石橋の隙連敷焼 夏より前病  
リガヤ

死亡の多し は葬の病を偲ふり口りとこれを避るるありとて探幽の戯画百鬼夜行の  
内ぬれ女の圖を写し神社娘と号し流布せり或るありのありあり

○二月十一日小田原より本食の沙門 名  
觀正 湯島田満寺(名)加持を施し(光)明空

言を授け(中)後集集影 ○回向院より房舟名古寺觀世音開帳 ○淡谷長

谷寺より相明閣奉還了(禮)現(再)修 ○三月九日(淺)草(幸)祐寺より(上)總(藤)原(系)

妙光寺祖師開帳 ○四月(心)流(劍)術(師)橋(剛)孫(兵)衛(宣)根(卒) 年三才 小石川  
祥雲より傳り

○五月新小判を分判吹習七月方通用 ○夏淡草栲場小根座吹所出有る  
 ○夏日向院より檟機落漆も新造如未開帳 ○五月十日画人清水曲河奉寺文名  
見林連  
 ○春より深川永代もて江の島弁才又開帳 ○神田明神社地小願堂を建立せ  
 ○此秋浪花より下り一田心七郎より小老菴寺人物を歎き花の歌を傳りしを  
 淡草より奥山より石巻物より遠をのり物夥和分 親方の加護おとせむらむと細工 坊人のゆるりやめするいふ ○ま  
 為國橋西浩小籠細工より大なる酒額童子の形を傳り見せ物とい和分 無井所籠りて 師の細工より物盡  
の傍よりね松と歌して涅槃の釈迦坐像を傳りしが 磯城の釈尊坐像の折るれとて酒を童子小改りて 向兩國あつてもギヤマンの焼菴菴先  
船の造り物杯も見せり是よりこむらこ大造のり物物 ○七月廿六日浮世繪  
 師傍川春英死半分号九種秋本奉終り中後學ふ小 蘇丹牛島も命令と小碑あり六掛園の冬 ○十二月九日夜 新成乃井上  
 炭山屋焚焼亡 ○十二月廿九日乾烈風未中刻三味線地佐竹炭山屋焚焼より  
 出火即時小向へ移り新成炭市橋炭山屋焚焼南の形一橋の方一焼出又を越

明神社園慶堂天文宗の辺茅町造中外部屋も院多々焼焼以羽翌日淡草  
 茅町より出火より辺二三町焼了 ○月廿六日夜南新炭山屋焚焼共中  
 小火形も小在 ○儒師井上四明卒名潜孫仲一号楓強固今年九十七才にて卒以 男を孫和といふ文政十年に卒す

文政三年庚辰

正月元日挿花師奉和秋一得卒西三才淡草常掃の教位ありては竹 三圍のり院内の碑文あるとてなり ○正月二十  
 四日廿五日飛火天満宮うとく参更の神事始り去年土坂と橋の社より大宰府の例ありて 此日を始む高社より今年よりなり  
 ○二月中旬深川沖一鯨二喉奪り六町半程の小魚之 ○三月十一日淡草  
 五泉よりて松葉谷妙法も祖師再修 ○三月より深川降ふもて身延山  
 祖師開帳 ○三月廿二日庚辰年庚辰月庚辰日ふ高る約五時年徳神を祭  
 る事あり此日應永七年より四百廿二年 月ありて支干月一とりのり ○春より南宮村熊野十二社控現  
 開帳境内の池小籠船の造りありこの節日とあがりられぬ或人の程あり 十二より池小籠船より一さうぐんを出入りするに焼り ○六月朔見

圓院にて信及居老如來園地由公指辺見せ物多り出たふり ○不忍池の南西の端はらに土をどつぎり中細流を隔あり茶庭料理庭を建列たてり櫓を載て東の辺に於て縁いける天保中より五掛せくる ○六月六日夕方雷雨しく墜おちり ○儒師市川寛かん森

卒し 七十六名世寧せい ○八月十五日夜月の内小星入いる ○八月十七日麻布一本松氷川形林

祭神再身ま子町し出い練物未せ出い ○今年正月より秋あきのりり寺地成り  
あふ指浩こう天造てんの着せ物出いるおのりりり不せぬふあり

△針金細工 お玉屋小路出 △交葉細工 月奈 △虎遊こ 月奈 △雨乞小町 法善堂山出

△流籠細工 東あふ △茶番細工 法善堂山出 △妻茶漫細工 月奈出 △新細工 月奈出

△貝細工 月奈出 △七小町人形 月奈出 △公孫細工 月奈出 △貝細工 月奈出

△江戸細工 西あふ △削掛白澤の造物 月奈出 △文覚上人もん 月奈出

△キヤマン象き 月奈出 △文覚上人もん 月奈出

△江戸物細工 月奈出 △時向とき 月奈出 △絲瓜細工 月奈出

△大盆お 月奈出

○九月八日大風お 破損湯た麟祥院りん大木の根中ね折おり ○九月廿八

日夜光物形ひ ○十一月廿四日佛人ぶつ 壺外う 卒し ○十二月廿九日奉白銀町ほう

出火本町辺焼亡し ○月日 儒師下田芳澤に 卒し 文政四年辛巳

正月十七日夜お州鎌倉八幡宮焼亡 ○月日 泉川宿跡い 以焼亡 ○月十八日

芝紗細町より出火大火し ○同日石町より本町ほん 丁目追焼し ○月夜小石川

傳通院より下餘焼失でん 正月火災多し ○二月中旬より風邪流かぜ 似に 似に

法救米給を賜ほ ○三月十五日より深川永代寺ふ 下徳成田山不動とく 寺てい

○月十七日より獲國寺とく 智世善閑ち ○四谷恭宗き 寺てい 下徳成田山不動とく 寺てい

○真光稱爲明神國柱 ○四月より日向院より羽州湯釜山へ大持現丈日如來開帳

別當注連寺 ○鎌倉松葉谷祖師法堂

定家菅原洞秋卒 平才法華寺町 白泉寺小善院 ○五月筋達馬の外牛込谷町代地を以て年々

むめ身肉より針を出し 左二拜の家主令以年々店をうけてかまをある善いせり若きより

總計十に年を出せ去年中谷小高所なる某種極小道場と有り時々の家の建補又二階(何)

も初れど度々小便せ滞り方あり又々の某種極小道場(何)引移し時々も小か(何)夜中

痛勢愈甚跳投床者無數須臾所黠處皆拔出針長寸許以膏塗

史記曰張嗣伯嘗開屋中呻吟甚嗣伯曰此病甚重乃視之見一老

媪稱體痛而處々有黠黑無數嗣伯還煮斗餘湯送令服之服訖

痛勢愈甚跳投床者無數須臾所黠處皆拔出針長寸許以膏塗

○六月長崎より百兒齊亞國の産路院二院を渡り閏八月九日より西由國廣小

後不出 數名カニル又トロンテリスと云とぞ予は時其物を着て和漢ニテ國令

○九月十二日塙檢校保己一卒 二十二年才号あり母子森末宗國の門人

○十月廿日書家岸幸 名政和一号蝶遊園 林孝先也

文政五年 壬午 正月 閏

正月元日雪尺不滿川 ○正月廿一日辰中刻日暈再重為傍小虹有り已刻小

除除院如來開帳 ○七月廿六日書家董堂致義卒 二十二年才号あり母子森末宗國の門人

○九月十二日塙檢校保己一卒 二十二年才号あり母子森末宗國の門人

○十月廿日書家岸幸 名政和一号蝶遊園 林孝先也

文政五年 壬午 正月 閏

正月元日雪尺不滿川 ○正月廿一日辰中刻日暈再重為傍小虹有り已刻小

除除院如來開帳 ○七月廿六日書家董堂致義卒 二十二年才号あり母子森末宗國の門人

○九月十二日塙檢校保己一卒 二十二年才号あり母子森末宗國の門人

○十月廿日書家岸幸 名政和一号蝶遊園 林孝先也

文政五年 壬午 正月 閏

正月元日雪尺不滿川 ○正月廿一日辰中刻日暈再重為傍小虹有り已刻小

至り消る国正月廿一日又同  
○王子稻荷社再興翌年奉成結  
○二月六日哉  
作者式亭三馬卒  
四十七年卒所三月位号奉町庵  
遊戯道人称菊地太輔

世を多く備をかりて甲乙を争ひて八月小つりて停らる  
○春より草屋所

海老原おいて唐人踊のつを物を出し  
カシノ踊と言脚の事  
大寺地の他り物をそふ  
世も移れぬとて因縁川

あも出はれぬこれを生似たり  
再三此の踊は云坂より始りたりと云  
傳俗紀聞の國中不扱れりところありと云

うんくとして日おそくかきあつるのくんとんを屋をそく  
蜀山人  
わんくの氷もそくを解きあけりて自ら空の橋のえ 月

○法藏寺大獲院より抄明天王寺奥院太子園結  
○三月五日より永代もあ

加洲俱利伽羅山長樂寺不動菩薩開結  
○三月より深川淨らるるを鎌倉斤濃竜

はち祖師宗結  
○四月廿日画人内田玄對卒  
本号  
名瑛  
○五月三日本橋町芝居方出火

○六月より森島戸田川出水  
○七月十五日書家沼尻竜涯卒  
七十五才  
名其章  
○秋山下

小笑布袋とりて見せ物出  
協中をの造り物あまの堂に内ふ布袋のいねありる像あり  
雨取腹をまわりぬるを強の例をむかひて目を差し下り

○八月廿二日大風雨夕方津浪津川本場辺三人  
十八日晴天まで  
十日高日あり

陸上より九月小石川赤城の神系種産子町より出り殊物多  
十八日晴天まで  
十日高日あり

○十一月夜中街臥し出で刃物を以て蔵之盗賊行  
○糸刻家稲毛屋山

卒  
十送金元作の道中條栗毛業和二年物編を突見せりよりありと云ありれり  
今年述す四十六巻を著し今くゆるは四編の傍に編を合す五十七巻を

文政六年癸未

正月十二日麻布吉川より出火品川八ッ山辺一飛火品川本宿より鮫洲逃焼之り

○二月八日倭人素朴卒  
九十九才号一陽井玉池  
今戸書書より著し  
○三月八日書家泰里池卒  
六十一才 名其馨  
称涼菴

○凌若回園勢大助神系結  
○三月十七日十八日清三社社現系礼  
早余年日あり  
出に松部屋集

先親の通神樂系形あり産子町より殊物も花簾を幸へり  
○三月廿一日

川橋平間より大師宗結  
○三月廿八日より四月十二日迄王子稻荷社開結

○四月六日太田南畝翁卒  
七十五才名單林直三拜相方を下り初名四男赤良といふ蜀山人  
遠橋少人杏花園木の数号あり数他のも數十種あり世の知らぬ

齋戸辰白山

四月六日儒師葛西因是卒

卒二才名實

○四月十七日より二日の名

中村勘三郎寛永の初身約より二百年目の素粒言身約 ○四月五月早天五

月中旬より霖雨 ○五月より因向院より攝河四天王太子園地

○六月十九日より近立出水大川筋大水

新大橋の半つをこり小柄系地氣為格の上迄あり ○六月二日程宮師鳥亭

馬馬死 七十金身和和

○六月十三日曉神田仲町二丁目より出火 ○八月十七日夜八

時より南大風雨あつて人家を損す怪象人死の者多し 小川宮橋較海辺大浪

家を没しつる所あり ○九月十四日山本清溪卒

○十二月二日より卯辰の方小彗星現る ○十二月廿五日夜麹町三丁目より出火

折居西水の風烈しく二日河岩迄定火消極岩一石八具坂より五丁目岩城

升登りて止る其火直下字寺の沖鉾に移り永田の場山王の門を町極に打虎

の沖門迄の岩流度の藩邸数宇南の板坂より赤坂の火大消極岩田町丁

目迄焼亡辰夜平川の社年の市を混雜のりあり ○今年更火雲

○十二月十三日儒師松下葵岡卒

文政七年甲申 八月閏

春より麻疹流行夏秋に至り引續風邪流行世帯向更火

○二月朔日昼八時三十分南角葉漬屋より火火して西小

の風烈しくこの日鎌倉川岩を振町本町石町十軒店駿河町室町小

川町本町船町俣野町小田原町辺日本橋迄焼

○同夜は時色青羽九丁目より出火橋本町目白坂改代町辺焼

○二月五日夜九時時報座二丁目より出火弓下辺新焼

○二月八日おの靈巖高の辺火災あり

誰いふとあつて一月の末より流言



一けるが此妖言の如く同日夜六ツ半時日所南新堀二丁目より出火と淺揚  
際追焼る此時町火消岡澤小及以怪家人多く即死のりれも有り

○二月新吹南録振通用始 ○三月十三日より淺草芝印ちふく京妙満寺

祖師開帳并同ち不悉紀州道成寺の薩清正公朝鮮より持来の文曼茶屋未

詳せしむ ○三月下旬より山下ゆく五重塔をせり上る日中物出

組込せり上る赤土中の新築のり  
○三月廿一日画人鐵形蕙商卒 名徳真の屋室政門  
人ゆて此北尾政美

とより一枚繪紙のりぬまき画り畧画武をありて世に流れ又赤の黄華山が花洛一覽圖の中  
ひく江戸一覽の圖せまき持ふ上と林田の社も江戸圖の敷をさげりて男を赤子といふ

○四月二日曇六時吉東京町二丁目より出火廊中焼亡 飯室の花園戸山の宿屋下  
津川大形地小形地仲町表

榜裏のり ○四月中旬より薩摩産揉芝居久々絶つる紙再興以

○七月一糸金通用始 ○七月廿二日八月十三日十四日大風 ○八月中霖雨雲

赤洪水 ○七月廿六日画人戸桐處翁卒 卒一才 ○八月十五日夜局中牛の

如き怪歎二足水より南一空中を飛り光あり ○八月十七日國學若清水瀨

馬卒 巳午九月油酒舎と号以孫元也 ○今年夏赤より花隠といふ画工あり

ありと云致種の様をいふ ○九月赤城町林祭禮の時牛込横町小大サ五尺餘の獅子

ありて画く様の外へありあり ○九月赤城町林祭禮の時牛込横町小大サ五尺餘の獅子

ありて画く様の外へありあり ○九月赤城町林祭禮の時牛込横町小大サ五尺餘の獅子

ありて画く様の外へありあり ○九月赤城町林祭禮の時牛込横町小大サ五尺餘の獅子

ありて画く様の外へありあり ○九月赤城町林祭禮の時牛込横町小大サ五尺餘の獅子

ありて画く様の外へありあり ○九月赤城町林祭禮の時牛込横町小大サ五尺餘の獅子

文政八年乙酉

まきり秋一うけて連雨止む時を ○正月七日浮世繪師歌川豊國死 功運も小華以

孫徳吉一陽世と号以舟川豊美の門人なりて家系を承 ○三月五日金離子張富久卒 孫

享和以来世おられし門人数多し折為活世の理を承せり

○三月七日曉烈風小傳る町之目々出火通油町る冷町未敷焼○ピヤボンと号一鉄少く他りる笛乃る小鬼の玩と云一不傳輪留四月十日大風

○四月の始より藤八文奇妙と味て藤の葉を售ふりの樹を安乃此の葉を食せり

○四月廿二日儒師太田錦城卒六十一才名元貞林才助各中一室より葬儀

○五月廿六日淨瑠璃徳元延壽世死徳元

○八月九日中川由義卒辛酉生徳島南山と号し書せり以て辨世徳高といふ

○八月末菊小慧星現る○十二月十九日夜五才時葺在町輝芝居より出火あま芝居焼元大坂町甚左衛門町住吉町人形町の辺敷焼す○十二月廿七日

儒師河原遜初卒四十才名遠業林徳五郎○東近郊園板乃一枚板中田惟善撰

文政九年丙戌

○二月大雲二夜降○圓向院之わ洲名振荒人林園焼

○二月廿九日儒師龜田勝百五卒

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

○今年遊女五菊が百年の忌

○秋之地震数度あり

○今年遊女五菊が百年の忌

○今年遊女五菊が百年の忌

○今年遊女五菊が百年の忌

○今年遊女五菊が百年の忌

○今年遊女五菊が百年の忌

○今年遊女五菊が百年の忌

○今年遊女五菊が百年の忌

○今年遊女五菊が百年の忌

○今年遊女五菊が百年の忌

○今年遊女五菊が百年の忌

○今年遊女五菊が百年の忌

○今年遊女五菊が百年の忌

○今年遊女五菊が百年の忌

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

○三月廿九日儒師龜田勝百五卒

浮絲名古も用性あり ○二月九日西藩光昭も主雲室卒 七十五路山水を画く并巧あり又詩を多く

○二月十日より浅茅も親皇書宗性 ○牛御前王子性現開性 ○深川八幡宮性

○肥前國上益頭形久松右田村産丈室武佐清つとていへり大男江産来 今年

火吉寺量二十五貫目手年又守是名又守寺 南越入所武松縁之助指妻雷

とていへり大室の志られ作やの會借くむ 更北馬

五郎横綱免済 ○七月本台五丁目古丁目東側火除の為町家と取掛せられ

違申の形跡は法門の外横田本は於て代地をあさる ○九月神田明神宗礼法

雇桑止の附桑十六卷所は成る下より一雨とせ 奥物三踊臺七孫物六と室む引万

文政十一年戊子

正月八日夜浅茅幡隨院の辺より出火とて又又未返敷院も右院も悉く焼亡

○二月廿五日時村田町武丁目湯屋より出火とて東風よて西村田町一園并

新院とて北風ありて本根町本町石町懸河町室町の辺より夜まの下

刻移る ○二月廿四日坊上より方丈火 ○春川口善光寺如來園性 門方船渡の

後橋を 山王所系礼附桑今年より廿五雨より成る ○下谷小野懸寄 雨を甚

の社地(石を疊て之富士山成)後く ○七月八日坊所伊川院法宗栄信卒 五十七

○鎌倉八幡宮御再建成 ○十一月廿日等覚院抱一上人逝去 六十八歳と云えり

○儒師菅宗本海卒 名基孫文系

同十二年己丑

今年の大元禄十年小同トより角が火を言ふの句を以て任利と云

く ○正月十八日大雪 ○二月十七日大風音羽より出火 十

○二月廿一日北風烈く己の刻三村田佐久野町武丁目向寄の枝木小庭より火

出て神田川を飛り東神田武家町庭一系小焼まより東の西園橋際濱町辺

武家方より永代橋より西八瀬町通り石例移り東例より今川橋向

本後町本町の者法燈塔通教寺屋外近南の杉橋橋筋迄を渡りし  
 一は石の町への本町石町大橋の町小橋の町馬喰町横山町辺一系隈町尊  
 隆町本町芝居岸屋敷邊小細町八丁堀靈巖島鉄炮洲築地武家方西  
 門迄より先海子小寺より佃島迄本控町芝居京橋新橋辺町及新橋小及  
 聖廿二日新橋火以武家方新橋駈く南小九里餘東西二十餘町焼死溺  
 死の輩千九百餘人と云り此救の小屋九ヶ軒を建てる新橋の官員を救  
 らる此時紀州守野山燔死群灵菩提の為小 四月六日未刻南風麻布長坂より  
 吊せり石碑を建る  
 出火版倉斤町麻布谷丁辺赤坂溜池黒田家中郎跡迄焼亡夕方雨降る  
 ○六月十九日より三日のる回向院まで焼死人供養別所念佛修りあり  
 ○當三ノ類焼の町中ひつら集土を以て龍閑町と云元岩井町迄のる除の土子成  
 築せり十箇不ふたり其あ合て五百十餘り 寺二大る端六尺鋪九間あり  
 ○赤坂八幡宮水代寺之開帳開帳 中六

火中村四月七日連雨時  
中後再開帳あり

○六月六日狂舟堂真頼卒七十七才 小川赤澤

○七月一某浪通用始る

○八月下旬大川通出水子位住来道る ○十月程法師村田庵厚磨修林田 徳町

小位 月廿二ころれ出言夜つらりの  
を けさくららる雪のりうら

○曆原考一卷持行 石井光致著

此年間記事

○赤坂大園庵中ひつら藩詰り豊川稲荷有馬彦山藩詰り水天宮御前池田彦  
 徳寺かまん瑜伽山大権現園原村大聖院不動寺本々表福寺親世音寺新能  
 勢ヤ彦妙見宮本系瑞瑞り又西新井きうち熱持寺弘法大師牛込町あんきうかん南宗院  
 聖よんじん天宮谷中吉祥院會天宮月正堂寺鬼子母并信人の並系瑞瑞り  
 ○赤川津あかがわの石像の上杉并新形あかがわの老より像を水より流走 ○新井村梅窓

院某師如來小兒虫封トの加持とあり ○盆種の松茶茶葉茶葉年宵灯籠を造り  
救金を以て賣買ハ又南天燭の異色を弄ぶ 千劫本植本松葉茶葉盆種の松を造り  
五より又南天燭の異色を弄ぶ

○籃持の法帖流行 ○右布の汗手拭を作り出ス 寛永の布の汗手拭を造り  
此の件も右布の汗手拭を造り

○川越箭弓稲荷社下総約本村振付明 川越箭弓稲荷社下総約本村振付明

○儀草平右衛門の町不仕 儀草平右衛門の町不仕

の色の奇巧や業下造り出以中内四人を以て四十六と春一むるの義又自在撒

号一居あつゝあゝと撒儀る義の奇巧なれどは是也 から四隣をさきさき一自在撒  
價中さきさきされず

を刻む袋と組糸と簡易小作りの二票今年行れり ○白き盆挑灯切子燈籠

燈籠と粉色の草花と画る挑灯行り ○ 和玉橋の布より新技本町お廿二燈と云ふ燈やあり  
この灯より一廉格といふ物を他りて商ひ始り十九四

○白金三結坂の山中庵雜司岩の向耕直ハ古き料理やあり この灯より一廉格といふ物を他りて商ひ始り十九四

○文政初の頃より大坂の石田五山が弟子墨田五山修徳に下りて林田餅屋町不仕一けるが

或日家を出て後ゆゑに半ふりたる旅付一夜の宿も修徳に下りてゆゑに妻もありてきん  
隣のものに代ふられしも乃方おれを中倉よりおれを且おれを物おてあり一惜むべし  
○作りの挑灯お草画の巴を画くは又最極高深町のちやうちんやとて始りて是画の輪窓を  
の万字も次おれをさしり ○中倉津浦橋再ひてあり出ス ○同里石吉坂中江出馬

天保元年 庚寅 三月 閏 十二月十六日 改元

正月十四日夜下谷啓運ち火 ○三月町火消員股大伐鋸始り ○閏三月廿四日

粗所師六掛園飯蓋車 七十八石川氏名雅望と号国学不長男を庵外樓法徳といふ  
ともおれをさしり又おれをさしり

○閏三月晦日 雷降 下谷の辺に雷ありと云ふ  
日方廿分或は廿分位

○夏に以寺院小の竊ふる石塔を磨

き戒名小朱を入るりのり程なく止む ○春の以たりや始り久伊勢大神宮

おうぎ多糸り流行一 次おれを諸國におよび おれをさしり

阿州の若菜り昨より四巻糸ふあり又糸大坂お移りまより徳圃ふ及せしとて室永の件ふりて  
即ち乃中統仍の宿を仍後一ある等々美藤お降りて事情の難せのせ償を文けは酒飯菓子お  
答一金湯を紙を紙を中要用の糸とておれを金銀の若しとておれを金銀の若しとておれを  
りておれを若くは教書言巻の及ふおれを若くは教書言巻の及ふおれを若くは教書言巻の及ふ  
文政神異記といつ冊子お詳なり京師の ○秋より淺草寺二五門修復 ○秋深川  
板より春本林亭といふ人の編あり

降心ちあく甲州身延山祖師開帳 ○八月十七日麻布一本松氷川町社系  
礼四年目西く産子の町より出り物未出る ○九月廿二日夜雜司谷

野乃院失火

法明寺祖師堂釈迦堂外中の一六六焼亡  
鬼子母律堂并末社の町を焼く

○十一月朔日西乃井総持

寺後供養撞始有り

道俗群集する事おびま ○十一月廿日画家観高月

卒

七十余才名常雅晩年景洲と号  
英一峰の門人の深川陽岳と号

○十一月廿二日夜本所兼川所より出火砂村の辺

追焼亡 ○十一月晦日己中刻橋所三丁目より出火若木町横山日綱町を餘武

家方未焼 ○十二月八日夜下谷所切手町より出火幡隨意院外寺院

町を焼亡 ○十二月廿二日夜四時小借る上町より出火小借る町より同日大

借る町二丁目通旅々橋町新枝木町堀町草草町為産芝居外於焼凡

六町小一丁半程焼る時七時始る

○この冬西く小出るあり十月  
小東九廿八夜未及

天保二年 辛卯

三月五日より十九日返無戸天満宮開帳 ○喜より淡草本系より甲及山梨

那休息村三心寺祖師開帳 ○築地の石橋南千二百坪餘新親埋立地ある

○四月深川要津より美良大森下町社糸綿の裁屑中へ割裂る本紙紙といふ物也

藤原む ○七月朔日遠山荷塘卒

二十七歳 藤原むの著籍小借り又福曲月  
琴を善く北西廂記源歌月琴考胡言浮語木の編あり

○七月廿二日儒師西照棠園卒

名簡称惣右門  
六十九才

○八月七日戲作者十返舎一九終

真一下谷く本居宗純も小森以中東陽院檀越あり  
辞世此世とらりや暇せん香とららるる

○九月十二日より極の肉妙法より祖師

開帳 ○日蓮上人五百五十年忌供養法花宗流も勅行 ○孝橋所門外不於て親世

太史勅進能身行あり十月十六日と初日とて晴天十五日の万身行の空あり

而天中外也翌年より日教の外日延身行あり石の六月未玉く信む

○十月廿二日日善里修性院の庵中不於て系師より下り

不還堂といふ大字

雲の字を著す

堅廿古石横十九万仙の紙を方武子校  
事七石三年草長武石朱中廿要極あり

○十一月廿三日曉上野所本坊火

○十月廿九日夜本石原町出火大久保度下中江敷焼

天保三年壬辰

土月回

正月二日曉五郎を落町より出火北井屋町南條町白魚屋敷生外敷焼

○三月より浅草幸社より下総駒木村旅防町神田焼○四月十七日より三日は

堺所中村島三井芝居十代目お徳の壽辰を母初○五月廿日浅草新町本花

より豆及玉沢法華を祖師田焼○秋高健泉岳寺山門再建樓上十六羅漢の像を排列

○八月十七日麻布氷川町神田礼花中一遊物木出ると後中絶也○九月廿如来

よりお佐右衛門といふ若狭火の要具を水車樋と号し井の水を繰り上り器並み

逆柄の柄杓を賣始む○十月新吹式米金通用○冬浅草より觀世を田焼

○九月廿一日下谷松泉町千束稲荷の宗小修の花中一なり物を出りるに

吉原西の岩の堀家より是をよみよを登上りて遊女売若若相合十六人保て

落けるが各重丸を融せかきむる○十一月浮世繪師折川重信卒廿余才

○十月琉球人來聘正使豊見城王子 前王の使澤抵叔方之 十六日江戸列島の日初雪降雪中

不川歌ふく雪いと白くふり積りて雪成りて

武藏の赤と吹雪のいしりいしり雪の初降きある 豊見城王子

まご 奉りりる日

○閏十月十九日寅刻糺町突夜時焼○冬風邪流り後民屋敷米珍をあり

○續徳家人物志刊行吉原東里甚之先小原の池永某が序の巻 日本徳家人物志の後編也

同 四年癸巳

二月朔日より寺島蓮花より富士山本号大日如來田焼○不忠池井寺天

田焼○芝泉岳より秋邊八相曼荼羅再焼、外西妙井徳持より法大師、瑞

上り芝泉池井寺天王子稲荷神、本下川某師如來、日白齋明神、多摩郡

井の沢舟才天 勢為越安盛才妙見宮東園地 ○容正法寺老佐渡塚系祖師在極  
 ○三月九日より浅草寺龍王寺より系於本園寺祖師園地 ○同日より永代  
 寺より下総成田山不動寺園地を納寄進の事懸 ○三月七日より和及江  
 の島下の宮舟才天在極江より諸人多し ○四月朔日より永代寺より  
 葛西濃江村親正寺客人権現園地 ○月二日より回向院より下総法苑  
 寺祐天上人像并地苑多園地 以時方より殺珠をえざる珠の大きさ  
 寺降り中小法園の神仏の像を安置 ○四月廿日  
 浅草寺より太恭廣隆寺聖徳太子園地 ○月八日より深川浄心寺より小  
 田原浄永寺祖師七面明神園地 ○四月十五日羅漢寺三市堂修復成今日  
 昼時之中寺の親世善像を遷次 ○六月浅草寺六天祭礼今年より  
 昔の如く神樂を渡次 ○義刻家益田勤政卒 七十才名満  
 字万頃 ○世夏靈巖巖島  
 東湊町の先小川辺靈神とてある何の神とも知らば一時小糸諸群集しけ

るが終のりありし止り 或人の祝ひ小川を渡り水中より上り一縷縷を  
 まるふやぐ看せ川辺におまぬありとりり ○七月半の以  
 たり湯島極生院の屋上樹木の中小葉昏たり雀幾百おとあり群り集るる點  
 人毛を獲ふといふも方おとるべとて或人云是の雀おとるは雨田耕者おとる院を奉る  
 何よりこのふりのおとる人おとるぬりのありと未その是雀を知り  
 ○八月朔日大風雨家屋を損下樹木を折る深川三十二万堂半分倒るる  
 怪家人多し ○今年米價也極 高貴氏所救の米鈔を編る事度之  
 写有の  
 町人各  
 然民所 の米鈔を  
 何より事ありし ○谷中長輝山感應寺護國山天王と改む ○十一月朔日夜  
 八丁堀下所代地福本といふ酒樓より火出近辺焚焼せり  
 ○江戸名所圖會挿紙 此書の寛政中祖父長秋居士の遺稿先考縣磨の技訂ありし  
 邦外におもむるるなりとて縣磨の編輯あり半挿紙ありしものなり  
 茶粉ぬり成りて降ふ不及はさうりりの先考没後遺稿を降せしと庸才不垂ねしおのれが若  
 冠の以ふし鳥馬の無考抄り今あつて悔れとより此社標の罪と先考おのれをいふおのれが  
 天保五年甲午  
 正月七日中村佛庵卒 八十才名景連林縁者史記考其の  
 林業ありし書せしり ○二月七日水風烈し



登八時神田佐久右所二丁目琴師の家より出火し、即時小神田川を越て東  
 神田お玉が池の辺へ移り、一系小焼廣うり、東のお玉の倉旧名辺へ移り、西の  
 田お玉が池より今川橋向平塚町石所本町宝所近東側一系移る所平塚  
 安由所塩町博所草登町お座の芝居住吉所經波町大坂町小畑町辺こ  
 けり小狭りしる所へ少くも移る不ひし日本橋より先へ通り町筋東側八丁  
 堀美濃島の辺新川新堀永代橋際近鉄砲所築地門前より海をまき本  
 橋町芝居佃島未悉く焼亡の区域去る丑年三月の火事小大なりしを以て  
 ○同月九日烈風あり、所りしが當時橋所より火西河原所通り一二丁目  
 近鉄焼を○同月十日登九時以大名小路の邊より出火し、と流度の藩邸救  
 守船治橋所救急屋橋所南船治町珍来町辺南側多町根座町尾  
 張町三丁目堀新橋向本橋町築地辺芝口二丁目延焼三度の焼亡し、あて

長九を里幅平均ありて十町の餘と、焼死怪我人救ふべし、法救の小座  
 十箇所へ十三株を建られ、貞民を救せしむ。○同十三日未下刻約近九軒屋  
 火より出火日西為救ふ并武家町やあはれ焼せり ○此節向少く風あり、火災度あり、人々安き  
 ふあり ○三月初日より日暮不動寺因幡 ○同日より上野清水堂観  
 世為冥徳 ○弘法大師千年忌法言宗の院新く供養の碑を立す  
 ○三月、牛島通花寺外弘法大師安堂の寺院冥徳 ○四月、浅草寺  
 蔵子あて下總古村妙光寺祖師冥徳 ○浅草寺町正覺寺あて武則新  
 座那座那 祖師冥徳 ○七月廿五日川崎平賀寺弘法大師自坊あて  
 冥徳 ○夏より秋へ多々旱 ○八月六日古草九代了意卒 八十歳  
 ○八月三日申通寺実相寺と改む ○九月其宗二分判通用止 ○九月廿三日書  
 家松平龍澤卒 七十五歳 龍澤 結主 結主 結主  
 ○十二月十九日院五刹淺草寺仲丁へ出火六丁極焼亡

式上...

天保六年乙未 七月閏

正月十一日明六ツ崎之神田熾燭町より出火皆川所永留町松下町二河町等  
丁目二丁目豫念の岸迄於燒並時お終る ○四月廿四日子化中刻在赤南町  
より出火廓中燒つて燒亡す 飯尾花川戸山の宿聖天町赤仲町門前裏(赤田赤町  
等より三日日障りありて此地(編り

○二月八日谷中茶屋町出火 りつは業在  
一田焼亡 ○二月九日津田町赤南町より出火

聖堂焼より何處迄燒亡 ○三月十日夜四谷々市谷連燒亡 ○三月より

淺草本苑より發及沼津妙海と祖師宗焼 ○三月十日より不忠池各々

天保燒 ○折島妙覺宮開帳 ○四月朔日より三圍編為開帳 ○四月より浅谷

長谷寺より赤若洞觀世音宗焼 ○四月より目黒正覺寺鬼子母林開帳

○四月廿八日書家園克明卒 卒年秘名義  
号儀甫 ○五月より芝神明宮燒肉より

京師六波羅密より本若觀世音開帳 ○淺草より奥山小韓信市人の跨り

潜る所の木偶と云々物々 人形丈二丈二三尺衣當経沙羅く排木の刺を用ふ  
よ糸細之れ膝方のこめぬ西ふくはされりて物少

○六月廿五日未刻地震 ○七月より淺草本苑より柴又村歌經帝親

又板本若開帳 ○閏七月朔日より田向院より豫念覺園と兼師如來巨像并

日光月光十二神若本若佛宗焼 ○閏七月廿日御谷振齋卒 七十五名望之内外の未修り  
一人は御流に在りて

○閏七月十八日曉地震出火及地震あり ○九月より嵐山小長崎山感應寺所建

五法 法花  
宗 聖年ありて本堂撞樓徳門修房ありて成持 巍然と梵刹あり  
極ありて盛せられり

○十月百文錢通用始り終残を清さるる ○野洲産人參の製を貧困の病人并

給 官医石法  
製法 ○十一月廿九日夜上野山内火 ○十二月八日夜下谷金松石編若の

辺より出火金松通り連燒亡

同七年丙申

二月九日己刻地震 ○二月十六日より芝東岳より八幡曼荼羅開帳 ○三月朔



焼亡 ○江戸買物獨案内三冊挿紙

天保八年丁酉

飢饉うきんのつき去年より賤民に救を下しある事成之 ○二月狂言師文うきん舎やま蟹

子丸卒 久保氏 ○赤川清心あかがわの身延山祖師開帳 ○八月薩摩燻燻さつま始む

魚鱒うなぎと号次 ○夜痛よこい行る ○八月十日日始より大風由人家を損下樹木を折怪我

人多く夕方小いより行る ○九月神田明神附祭の内橋本町より同より籠細工

の身物みものと出立 身寄の娘の熱向まそ意主と様の人形之類より身置衣袋若組五木小い 遠慮とんりと飛とりて遠り繪の具より毛とりたる格かりし事成ら小あは

○十月寺々様新規次しんきなる ○十月十九日曉六時吉原江戸町二丁目より出火

一系焼亡 飯尾山の宿花川戸赤川八幡在ふあり ○五志別新規次しんきなる 十一月朔日より通用とある

○十一月九日夕八時近地地震 ○日光山志五巻挿紙 榎田十老衛 善備編輯 ○関八州路程全圖一挿紙

酒井喜照著

同 九年戊戌

四月間

正月十五日欽入庁岡寛光卒 林周補又権太郎号郁子園 傾城の産蓮のち小蘇次 ○二月廿二日明六半根岸の

茶屋町より火官永町七新町等外近辺に院焼亡 ○三月六日より半島白鷺

明神開帳 ○月十一日より新寺町五泉より下総番取妙たう具ぐ祖師開帳

○十七日より回向院くわういん之井の取弁と文天ぶんてん再焼 境内より人形師泉田若の細みたるもの 後死人を焼つたせりのこと

○月十六日市谷茶本稲荷神いなば再焼 神領の遠くありしにたけのきも ○三月佐藤屋浦新規 小宮物の形をそそぐに焼く 町落成

○四月十七日大風午の刻とき小田原町武丁自湯登より火火一始は小風かりこら

南風みなかぜふりり伊世町船戸物町本町石町本根町辺より今川橋通り西にし鎌倉河

岸小川町武家方面祚田町一系焼亡室町の辺へ夜成刻ときに焼く門かどよりより

○閏四月四日夜翻町出火 ○五月廿一日より永代とこよより武州多摩郡長岡郷玉

川明神あき再焼 ○同廿五日より回向院くわういんより紀州加田淡島明神あわ再焼 神より紙籠の形を 紙不似と細むるあり

建御物あり有御座候 ○酒入降 鈔うり一板市中不濁り酒を製して集ふ家多し  
板町の七半途より止む

○八月廿五日大風也地震 ○十月日本橋去年二月大坂より奉阿り一何某が一件  
落着の捨札立つ ○十月九日十日湯島天満宮地主戸隠明神祭出づり物

阿まらば遠をの石物群集候 ○十月十六日大風朝霞茶所既阿岸渡一船  
覆りて人多く死候 ○十一月八日夜水谷町より出火佃島迄燒亡翌日已刻然る

○月九日夜市谷左内坂出火 ○東都歳事記五卷梓仍 月峯著  
○江戸方角註解一卷梓行 三遷著 長谷川雪且并雪提画

天保十年己亥

正月十一日雲二尺五寸程積る ○三月朔日より飛戸天海宮開帳

○三月二日西南大風土砂を飛た夕七時の小石川若花谷より出火駒込馬士第小川の  
武家方組中江町屋とも以夥くき乾燒之 ○三月三日より青山善光寺より

一先之為跡院如未開帳 ○月十一日より千駄谷仙壽院鬼子母林開帳

○六月十七日より回向院を川傍平間寺弘法大師開帳

○相州印の島舟方天無帳 ○四月為國橋所管清成時龜井町の

住人形師末吉石舟 ○四月為國橋所管清成時龜井町の

○六月十七日より麻布廣尾天現寺毘沙門天開帳 ○神田明神社一の

居建改 ○六月末上野中堂の後三花をりの大木風もあたり折る

○十二月朔日大風昼時色江谷恭宗より出火青山寺より延燒り及ぶ

○十二月廿六日言田生堂院より出火言田辺町野乾燒院八幡宮の樓門燒失

○同廿七日夜吳服橋内秋元庵は藩邸より失火

同 十一年庚子

二月廿八日より王子稲荷所開帳 ○三月朔日より元坂田町世継稲荷所開帳

開帳 ○三月三日より小石川牛天神開帳 ○同六月より浅草寺町正覺寺より  
 中総大野法蓮寺祖師開帳 ○月十三日より浅草寺泉寺より佐渡塚本根本  
 寺祖師開帳 ○四月より根岸権現山内約込稲荷神社開帳 ○谷中妙福  
 寺祖師并日親上人開帳 ○四月朔日より芝村明宮内より天海宮内筆の像  
 開帳 この内権内(系)より未の(系)生狂言をせむ物なり ○同日より南善村慈野十二社  
 権現本地親世寺開帳 ○五月より麻布善福寺開山像開帳 ○八月十五日  
 芝田町八幡宮宗礼産子町より出し佛物本出はし後止む 八月権現料院  
 神牌月樓柳や  
 仙家善後成就と  
 高貴と云ふ ○九月七日夜五時元救寺屋町火出尾張町逆敷焼せり  
 ○九月十日朝大風雨 ○十月十三日浅草寺本堂修復成就より今夜酉下刻  
 本堂念佛堂 本堂善法中本堂ハ  
 此堂小安堂一なる より遷座あり 遷座の旨の熱のを用  
 障中の外入る事と云ふ 終て齋時衆  
 帳あり道俗群集 此時本堂本堂我院より東源齋敷の草の惟茂鬼女の刺草紙文祥  
 草の関羽郎於未定其草の縁縁の草未のりし草の縁の草のりし

○十二月十四日画人谷文晁卒 号字山樓又畫字秋蘿筆一々  
 文向孫と云淺草深草の草

○十二月十八日社田明神社修復成就小付く亥刻遷宮あり 号字山樓又畫字秋蘿筆一々  
 文向孫と云淺草深草の草

天保十二年 辛丑 正月間

正月六日夜四谷濟尊堂町より失火四谷傳る町外翻町本町焼羽立院  
 迄焼系 ○正月廿七日夜根岸の茶茶燈町焼亡 ○三月より信通院内福聚  
 院大蓮天開帳 ○三月廿八日より浅草寺親世寺開帳 其山之蘊馬を具せ物と云  
 兼川園九と云若月不云曲  
鞠の遊ぶる物日毎小山を走り又淀川區五弁  
 と云ふ所の能り一具細工の足せ物も有り ○同日より田向院あり徳谷寺  
 蓮生像開帳 ○同晦日より青山善光寺より鶴木光寺親世寺開帳  
 ○護國寺親世寺開帳 ○四月より芝場町某師如來開帳 ○同向院より越

後高田若守も大師（若守）○浅草妙善町五泉寺にて□洲市村祖師若守

○五月十八日屋代輪池為卒名証實孫太良書局圖書○五月より坊間の法度中名所の白山寺の法度中

古小復す（古小）青々令せ（古小）○五月廿九日俳人大梅居卒（古小）

七十才始山門人少く梅外又克徒待を若く一後道彦門は入て俳諧者り所為翁の富高小高居

周々助少り一家衰て後元大町小高居一房母と号して菓子を售ふ孤山剎高木の号の跡高居中修

善院小善久源川長業も亦碑あり門人卓即建々（善院）○六月より浅草念佛堂より公呂根荒

辞世七十や何中交の中枯枯尾也（善院）○九月神田神系礼の時今年より附系十六系

人神園性（善院）○九月神田神系礼の時今年より附系十六系

と改く二系系と改るべきなり二系より出（善院）

始（善院）○あまの曲の万葉打末さぬ山か樹も

帆保をり又松の曲の三重ハッロあや格すくひ打抜るの曲あつたりその先三重の巻際

ぐせれあの中扇席子遊ひ階子のり多後り大いふ上初年の番但之是く少くありあり

○九月の國橋為廣小路へ紀州若山の生れよと齒力鬼（善院）

小出る（善院）の茶碗を啗刺り或は種（善院）の就改せは小くは中修重た物をとて

自在小振ふ又浅草寺の奥山一駒馬とをつけく曲る（善院）せ紫り後小馬人とも小宙小約上

る小手物も出り○十月七日晚七半の時堺町より出火為産芝居屋に六竹町元大

板所新和泉町新系物町屋外乾焼○十一月晦日夜上野大佛堂より出火佛

像焼損し堂宇焼亡八同十四年所再建あり（善院）

○十二月菱垣也船仲者十組商人等餘具加金上納出免有り諸商人同船仲者所傳

止あり○十二月十七日大雪二尺程積る浅草寺年の市詣人少し

天保十二年壬寅

○新曆頒行（善院）○正月廿七日大風四方源川山本所尾花登（善院）

乾燒あり○二月廿五日より湯島天満宮開帳○去年十月堺町草孫町の芝居

焼失後為産若操人形座浅草山の宿小出産下屋鋪の地引移（善院）（き吉の

る命有り）○當二月三日同不より野地（善院）をトあり

四月廿八日より町名を藤若町と

号し本松町の芝居も遊べあり

武江年表卷之八

引下すしりて三町分製地敷坪若干千八坪餘とすその意中二昔の三里塚の傍にありの古井に  
十石余一丈餘の山を又濠して舊地と稱するのあり他を埋め小畑を建する小庄家の中の中ノノ翁也  
福とせしる是より後翁翁收復若他町の住居を移せられ三町の間に住居せめらるる途途中編とす

○三月朔日より水代まで神奈川觀禱浦島○月三日より日

○三月七日西大風量時正午近通寺町より出火より小

石川小日向約迎邊果鴨が東近武家町延壽寺院多く焼亡に焼死怪象人駭

○三月十日酉刻本願回向院秀元町屋上町焼亡

○三月十八日 官府より命せられて江戸端々料理茶屋廿餘ヶ所取崩酌免

女吉東町へ今八月迄は吉東引掛ひ若妻（赤引）多くて喝家と あれどもあり不謂廿々下の除の拍子へ △深川仲町 仲町と稱せり △新地

△古石場 越中 新石場 日本橋 山手町 橋下 徳打場 △本折新天 八并落中れ 松井町 △三回三角 本會院 △麻布市三條町

△淺草堂前 松光寺

△市谷ぢぢ谷 谷前 △根津つち △谷中のらば茶や 大宅 音羽町

△鮫ヶ橋 △赤坂表丸 田町之遊女の者よりよよとのあよよの者り

○三月廿二日小大風量時午時縮幕つあより出火石川新宿小石川崩新焼亡

○中野宝仙寺不動尊開帳 ○四月朔日より高橋太子堂唐申堂稻荷社宗帳

○六月より回向院にて南都法隆寺聖徳太子御帳霊宝殿あり拜むはれを古物あり 高美深川の宗帳よりして礼拝候りと

○六月十五日山王伊系礼佛産約七始産約廿ヶ所

○六月大佛が所小舟町牛頭天女山後出の多尚年々

○七月十九日戲作者柳亭高谷種久卒種久は軒 号是軒存

○八月榎若所操芝居初真仍結城 ○八月漏池上白山社取拂 ○九月榎若町是

町田中村劫三郎月二丁目市村羽左清つが芝居初真仍



○十月琉球人來聘 正使浦添王子 副使在見親方之 出使の來ぬ山(美清)

杜むきれはをさうさうに衣をけりぬる最あみの花 玉子

ねとをなすは日おねを今も又天々八子代わたりをいへ 全

○町中勅語の神佛引拂

本報町親世より上野大仏堂等甚難誣不動をたす所強  
勅語(同)不金以難控現の請受并古文の内取申取回後不勅  
言ハハ務大復院(平)不番場秋葉控現の樹場係泉も申(西)岸地務等の麻山(一)移る(外)町居  
と号するもの故(一)も(一)のれも(一)院(一)移(一)又(一)清(一)と(一)氣(一)山(一)の(一)修(一)強(一)延(一)祀(一)の(一)定(一)引(一)る(一)も(一)所(一)

○南無人不知大諾右邊の横綱免許 ○當冬本橋町五丁目(向)不橋權之助(是)居

形を程と自ら申中 命せられて後若町(一)引移(一)る(一)是(一)地(一)を(一)お(一)以(一)聖(一)印

年秋あつり土木の功成て芝居拂りの若移り(一)移(一)る(一) (十二月廿七日 大雨雷鳴)

天保十四年癸卯 九月間

正月廿八日重人長谷川法橋雲且卒

六十才名東雲若岳一陽菴の  
身有り清き書物も亦舞  
夜より毎夜西南の方(一)白虹(一)頭(一)る(一) (二月九日地震 用水桶のふこりも程有り  
巴の下刺あり)

○三月廿六日大風嵐時且横田右左衛門所より出火(此)辺町(一)敷(一)焼(一) ○四月七日書

家巻菱湖卒 名大任祐右内  
一号弘舟 ○五月市井居住の巫覡修驗(一)る(一) (清量) お智水の扱  
測量水の扱

濱谷豊澤村前山(一)地(一)を(一)移(一)り(一)移(一)る(一) (今年夏より大川通(一)外

川(一)邊(一)を(一)命(一)せ(一)る(一) ○夏幸枝本町續の堀を埋(一)れ(一)町(一)邊(一)と(一)成(一)る(一) ○溜池の堀(一)

る場を築(一)る(一)家 ○六月二日夜大雷 ○九月湯島聖堂所(一)修(一)成(一)就

○九月十一日夜二十名燈三丁目より出火(根)座町(一)外(一)敷(一)焼(一) ○九月下谷(一)啓(一)雲(一)寺(一)上(一)野(一)山

之助(芝)居(初)身(初) ○閏九月廿日(此)時(清)芝(福)井(町)一丁目(出)火(芝)町(芝)二丁目

平右衛門(少)一焼(る) ○十月八日神田(板)橋(町)出火 ○十一月廿六日夜湯島(五)丁目(出)火(芝)町(芝)二丁目

出火(芝)町(芝)二丁目(出)火(芝)町(芝)二丁目(出)火(芝)町(芝)二丁目(出)火(芝)町(芝)二丁目

○十二月廿一日画(英)一陸(卒) 半條才二本橋  
兼教中頭を院より蘇 ○十二月廿七日夜西風(且)時(以)船(活

揚内より出火五節去清所より多町白魚や江小井登町弓町の辺一系尾張町  
より本控町西門の内隈武家方近藤座町并枝本町の岸を介して焼亡廿  
八日於東風より怒り救済座町市編町如賀町山王町丸登町出雲町の辺に燒  
夕七つ晴る 〇古金銀並歩判紙米銀を米銀未通用を傳ふる

此年同記事

天保七八年の以より日本橋四日市箱籠宿明林美結あつとありて之れを  
こむる者陸續と盛るは群集して文政の以より四谷新宿の小山文院小安を  
つるの奪衣婆は口中の病をとりて急病の者多かりしが如米の今よりより  
証盛よりり流籠を新り日条百廣系の繁盛 〇雜司が谷法明寺塔改毎年  
十月會式の飾物止む 〇神社佛閣の富與仍文政中殊小盛りて救十書及  
ひつろ天保の末より止む 〇因細村は梅園を撰(救百株を栽り紅ふを交へ每

妻遊親多

何のの号收  
東生とり

揚内天竺牡丹ヲキサと

揚内天竺牡丹ヲキサと

をせりて技をたれ即時小案を寓れ合飲の  
おく暇がわ一節某ののいふはるるを 〇煎茶の會りたる 〇浮世繪師國芳が草の  
狂画一立并廣重の山水錦繪り 〇現在の文人墨客諸藝人又諸售物も茂  
南力小たり組甲乙を記せし物をわす 〇六字南せ右邊門左門よりより小流を  
を汲る女を交りれて場を撰ふる屋に於て恥るをあへて婦女子のまぢり記さ  
た末節の淨福禱をうけける事丈夫好まをひつゝこれを言これ者着て藝の功世  
をいそいでて容貌の美惡を論トるがやうなこれを撰せられし此世のつらうきうり  
〇横飾の深物たるる 〇近世文藝の士殊小多く名流達士も随て胎くるに  
これと現存の壁の傍りてらふ徳さび 〇人情本と唱へる男女の私情演義  
のさむせのつらうき低板多判りけりて天保以来特他あり 〇近頃月琴を弾を  
さぶりの多り 〇皇位尊を弄ぶものより下より聖をば撰るに近年殊小盛りて

養育も以て身又た々々にあり毎年二月は香成飼ふとあり都下の香成  
兼亦小令くく香成の美悪を論一風流の名を設くを以て妻日山と号し  
るの衣冠如く天下才一と稱す三笠山と号するの是又再くとを隅田合  
某其を漢一巻を著し畜育の法を修習の論委しく考ふる

○寒暖計と号し四時を暖を量るの番初るりたる兼人持信りの品ありて  
本邦にて製し始ふるよし○涿川仲町一帯の傍に坐し軍山を毀て所産を以

弘化元年甲辰 十二月十日改元

二月より牛の所前王子権現開帳止む ○涿川より所前王子権現開帳  
系妙光寺祖師開帳 ○中延八幡宮開帳 ○飛戸天満宮開帳 ○妻小夏小夏り  
あ園橋西廣小路小太る辰を撰し約也一竹澤若治下谷の位 あり小夏妻の曲とせん  
マイくくを交て見せりといひえ物山の如し  
これ小夏ひく涿川若治の奥山信りといひる  
約也一竹澤の趣向ありし約也ひくひく

四月五日夜九半時小  
石川下宿坂町より火にて物邊土物店近敷焼幅三長十二所 ○肥前平戸夜大男

生月縣を焼つといひわ撲取来る別の大七天寺主三十二愛堂  
一尺寸今年十八才十八人かといふ ○五月音あ園橋

西廣小路芝居小座崩とて即死二人怪象人救ふあり雨後復の齋 ○七月九日音あ園橋  
小田原町一丁目より火火伊勢町津戸物所室所敷焼夜九時終る ○七月廿四日

曉八時田所湯屋より火火く元大坂町長谷川町江津所元濱所油所所  
町馬場町に最近於院朝立所以終る ○七月廿八日能師田喜菴護物卒幸三号本宮居  
涿川社金三子孫

○越後の香男女の侏儒不踊りせむとせ向あ園小秋く着せ物といひ ○十月より果物  
深井兼の造り物再び始る文化よりこの花檀のあり造物に伝ふる今年果物ある天感院  
の會式の飾り物として末祖の幼稚のする兼古運流の終る兼花ありて造

○十月十七日より王子橋前町神開帳 ○末師の画二岸約が男岸良治

戸小末の浅草親善堂（中）揚香の額を掲る○今年長壽の人水口壽山（百才）末吉石舟（百才）花井白叟（九十才）大岡雲峰（八十才）前小松為一（八十才）

弘化二年乙巳

正月廿四日小之風砂石を飛以昼八時之青山燈を承續二軒所武家地より出火一々一時小焼ひらぐり或飛火して麻布三軒家一本松を辰坂辺六本本龍土市並所振田所永坂辺度尾白金魚藍親善大信守の辺二本榎伊四子榎町等蕎麥田所小焼亡して海多おまゝる夜ふ入狸尻三回の新細町の辺焼亡成下割移る武家寺社救を初り所救百廿六番町焼死怪家人或ハ海辺の者若後の火ふ宅れ海中ふ入溺れ死をりりのを合せて幾百人といふ事を却り赤羽橋の側は救の小舟を建て敷焼の負民を育せり（い夜何れの家よりぬれ出り荒能正人辺の中を往い走りて某度の藩内へ進入を家臣何某父子二人おて仕留り又ハ火事の時白金聖所二日禅宗西樂寺の表つ小焼る時ん越師の草曾明山と謀りて出づる扁額大中小）於九年外人坂の火より小焼り移りてり今年ハ門焼落て顔の焼も焼る者多し又瑞雲寺長福寺麻布氷川社等蕎麥子堂庚申堂

稲荷社東岳の如來  
もあわび残り

○二月雲巖高よ築立化成る後町を建て富徳町と号し

○三月廿七日曉七時半時柳原去存續富徳町より出火久右衛門町豊島町火和町江川町楊峯町辺小焼る所塩所油所田所堀町新枝本町より長谷川町等砂町辺ありは十九町の敷焼あり夕七時ごろふりり焼火は

○當年開帳ハ二月九日より牛所前王子権現（去り跡）同日牛島蓮花寺弘法大師二月廿五日より井の沢系々天同廿八日より目蓮不動尊三月三日ハ川口善光寺如來

今年奉堂の下を極て戒壇也とて（同五日より浅草寺町森宗又兼師如來）同日九日より古妻森在妻權現（中）同日より川口錫杖寺天満宮地蔵寺四月朔日より芝社明宮内系々天同日より津川洲崎系々天同日より品川海晏寺系々天（さめつ）親善堂系々天四月より出村奉儀も鬼子母神五月廿五日より葛西柴又村系々天七月朔日より愛宕山内系々天（山の下同山堂）右何れも自坊

武江年表卷之八

小松屋焼あり ○七月より浅草寺町正光寺より中山鬼子母林軍帳目より  
 廣尾天現寺毘沙門天目録高幢寺金毘羅燈現開帳 ○八月十音より小石川  
 白山燈現燈寺八幡宮軍帳 ○三月十五日おねの橋上の宮弁才天開帳の  
 系指多々 ○五月浅草寺五重塔修葺 ○九月牛島而 裁木種寺院あり  
 業の造り物出あり ○九月猿若町より聖天宮表の通一其並小小路をむく  
 ○十一月廿八日俳人白熱堂風韻卒 後倉子住持等と互鹿對井  
 といふ谷中たまふ事 ○十二月五日暮六時吉原  
 京町武丁目より出火廓中焼亡 後宅の花川山のはる屋を町丸町浅草山川町同所移り越山  
 谷津川八幡より同查村町佃町同所製町八幡宮旅不門を卒不  
 陸屋中火時の移中入江町若島町 善より其掛て後宅を去つて以午年九月元地  
 八幡寺清盛を并え天宮松井下あり  
 法成く引移る 後宅の二百五十日限りとて元地移り以時ありふ出まると居るを去り去妻共家園を去り  
 永續名家三長あやといふね妻を去り去妻共家と改む  
 ○十二月十一日夜坂本町より出火茅場町表裏茶師境内焼亡

弘化三年丙午 五月間

今年正月元日より二日迄の百牛房小毒ありといふ俗説はれ 諸人念ふ所  
 ○正月十五日北風烈々 砂石を飛ばし夕時より小石川片町の小武藏地より出火  
 て丸山へ移り本妙寺菊坂の辺より本町所より元町辺へ本町通り湯島町まで  
 其本町辺神田明神門前 神田社樓の境内社并湯島  
 文徳堂聖堂の事あり 後花町仲町の辺あり湯島は火  
 駿河甚(飛)て小川町へ焼込東西林田町へ一系焼亡 今川橋向の本町石町堂町大  
 傳馬町小田系町小舟町堀江町小畑町茅場町八丁堀濱町永代橋際迄雲叢  
 島森北致炮洲佃島 本町より北  
 中島 南へ堀小のころ為江堀橋通り神田より一石橋迄日  
 本橋の向へ通一丁目より多町迄系橋手前一系焼焼と行る小色れ町へ連連と  
 何れとも移り所へ一羽至十六日の晝九時迄炭町の井河着まで焼る長九一里十條  
 町大小名は蒲邸敷を初り八町枝武百九十餘町焼死怪象人殺り小いと夜は火湯  
 島田満る三層の多宝塔 軍山より建  
 又妻意橋荷社  
 近以再建して莊嚴  
 あり社あり 也時焼あり

○乾燒の貧民の救の小座三所一建くは除の候氏も未焼せあり写者の高き  
もの焼せ

○正月十六日燔魔  
未更あり

○二月より深川八幡宮開帳○同洲傍舟大天本社修復成就

開帳○二月十五日より淺草八軒寺町大園寺より川越在り妙昌寺祖師開帳

○三月より永代寺地主七渡り舟大天開帳昔海より舟ありとたてたに誠の辺より高社  
指すも七の格と渡りなる名有りといふ

○四月三日より湯島社内にて埼玉郡野島津寺地主七渡り開帳○四月廿二日御師

小養庵唯嶺卒○五月晦日関原大聖院不動堂火御堂  
房焼失○五月十七日和奇舟

國学老鎌倉植園卒五十八才冲子信師始者卒大隅後者姓船田不改称  
植進雅繁と云は因といふ程中林宗院少事○六月より日向院

内一言親世吉并茶茶舟才天開帳○蛛の糸巻成字本巻若洲百樹七十八の時の著  
舟永高は舟上の風俗を記

○夏の半より雨整くして晴々事稀之六月下旬大雨降續き洪水溢れ出く

下総羽生利根川通り堤の辺九尺餘りと圍り廿八日子上刻葛飾郡権現堂村

より六里上本川役村堤切は洪水漲り出子住込家屋を浸し小柄糸の石地花

者肩より上の何れも有籠籠の辺一時水溢れ床の上三尺なり小及六住居

ら外へ逃避くも溺死の事も有り一日日本堤よりなる水高海の如

○六月十日山王宮系神社所修復あり同月廿九日不夜の洪水未

減せし七月より洪水高漲七日八日より再び漲り大川水勢を急し大川橋

新大橋永代橋損壊せ住来より國橋を通りあり本所辺ありより水勢

増し付く本所より士民板中俄より舟をさしと逃る人も多し混雜り

より船持不令せられ日々助船救渡せ出されこれと救あり

此れをて住居ありぬありこの邊あり ○当年在りも災あり洲桐生倉野野村

宇野宮佐野本所宿態を谷深谷行田本所外大史あり○喜多静盧丙午舟

一巻を著輯し写本 世の人丙午の年災厄ありと云且當年舟生る男を記す世のありとありこれ  
思む事と云ふ十餘詳異本の例史を徴しと云

弘化四年丁未

正月十日夜亥刻下谷通新町より出火千住三昧の寺院焼く是焼亡也○正月廿八日曉又中刻桶町より出火二所程敷院○二月三日より西新井弘法大師園

燒○二月五日より関系不動寺園燒○月十八日より儀芝寺觀世音園燒○二月より

儀芝燒町寺一向二寺の疎院如東園燒○湯島社地之野島地燒○園燒去の焼

○五月より儀芝町大佛より武馬場村飯所神園燒○三月廿五日

小山田与清平國學院より以初名多田藤吉史又吉井左衛門後小山田与清と改号和歌坂の巻

○河原儀芝居喜の狂言小中喜春柳春虎春の正徳を伴けり世小仍れて諸人酒席の戯れにこれを喜徳

○東儀芝より東之の世物又世物とせられ此の形を造る政の大きき大除煙まへの大きき百歩より

○三月廿四日信州大地震人多く死にけり是夜歩一の地震あり

今年三月八日より川中島若菜よりお東の園焼ありて諸寺より集積集りて一掃掃掃りて一掃掃掃りて

儀芝山の相形よりも滅る成情一掃掃りて三月廿四日晝夜快晴より夜明け時以儀芝大地震

以中一五塊又五塊を覆一塵打れて即死するもの数千人といふを如く儀芝寺近辺の疎林に東儀芝

非難あり合一その禍不遠よりのたと由小敷一掃掃りてこの倒れり家より大敷く大敷く善光寺の寺堂

傾くる俣坊り中儀芝の患く及於てお東の山中小のりて利益を蒙り一會成金よせり一の穀あり

又雷の如き雷なりて高ゆりて一夜のよふ迄午時迄四月五月よりて由止るや大蛇烈けり泥

物掃りてより入るに丹波あり二里川上虚空山井丁程あり澤川一落入洪水溢る丹波川水神也

左右のどに焼死の人多くを如く儀芝寺三分人といふは六九の移りて焼く一掃掃りて水内郡の焼

を掃りて一掃掃りて他山焼れぬ儀芝一村を流し流るる由中儀芝あり東儀芝に飢不迫りて儀芝

儀芝の地帯に止りて用お泥水とありる遠方之端小若り程あり官府より小屋を建ててこれ

の窮人を育一食也を給りてこれ其の年の大厄なりてす一毎に戦懼以 儀芝の寺門前よりなるを

建一不夜よりてりお東の儀芝を再建するに方也三度不いりて晝夜番人を付りて是の凶災を

らりめあふりて一掃掃りて一掃掃りて一掃掃りて

○五月十六日曉八時半時横山同明町より出火橋町三嶺町横山町辺敷焼以新也

時燒る○六月大佛より町小舟町天主神樂所焼出のり去年迄五年の存体より今年

より儀芝より一掃掃りて一掃掃りて一掃掃りて一掃掃りて

○十月吉原秋葉燈観念の時花出り物多き出火○吉曲類纂六卷持以月冬

此年同記事

根岸新田といふ所は梅屋敷と云く園中廣く松と紅白枝と交り頗る壯觀あり

考之園石出るといふ所も雪の谷より柳林地を物多の里と号し雪の名を以て東儀芝山邊寺に某物

吉の里の由ありて一掃掃りて一掃掃りて一掃掃りて一掃掃りて

三十一

○革毛といふ漆毛石垣を有るといふ陸権松と申す ○谷中陽林寺塔久成院妙法  
善神社祈禱の考あり ○高橋石神門不安番寺境内(福) ○七年以来雪降る三掃  
○幾重一といふ散れゆるせんしりくつらよの点畫を施し餘人これ小筆を加へて画す其の散りし  
大人の身入べきりのみあり

嘉永元年戊申 二月十六日改元

今年の大文章の字を以て暗記の運筆の順より終るといふ撰を以て撰と云ふ  
○二月六日より晴  
天十首の爲め助遠橋河の外加を系よ於て室生太史觀進能身なり九月十三日小侍の鳥  
羽の日毎不遠をの字妙轉様とて維を立るといふなり ○二月廿九日八景泉寺の八景曼  
荼羅開帳 ○美六阿弥陀如来六所開帳 ○三月三日青山善光寺の八坂善光  
寺経院如来開帳 此の善光寺本堂  
堂後成神せり ○三月廿三日夜赤坂表傳所立丁同々火救所焼亡  
○四月廿九日遊山遊山上人化益 日梅寺法堂  
松秀寺に遷す ○二月廿九日喜多静蓮寺 八十一才名世吉  
松秀寺に遷す ○五月護國寺山内松の梢小僧榮と云ふ ○六月初旬より日干  
西宮保天徳の中教史院主善光  
内外の書藉不焼り一人あり

○六月廿五日八十日回向院にて縁縁教如來開帳 今年の縁縁法例より中一縁縁人  
奉出候り候と云ふの事あり

○七月八景草寺善光寺にて甲州青柳村福昌寺祖師同不違光寺にて上縁縁法抄光  
寺祖師開帳 此の善光寺  
堂 ○八月浮世繪師英泉映 ○八月廿三日北畠玄惠法印の百年忌

市谷仲の町金春氏之能并程言身あり 此の善光寺  
堂

○八月廿九日所連新師壽阿弥曇喬卒 今才号如星福庵空華戲号劇神仙と云  
小石川傳通院と中昌林院小僧也 ○十月儀の東

仲町大路小坂松井せ垣る ○十一月六日曲亭馬琴卒 八十二才名解号長谷玄同善他堂の松尾  
あり臨海院法外也と云善光寺にて留ま  
り善光寺の世の人善く初らむと天保中明と云ひて後より善光寺の  
堂儀善光寺と云ふ

○十二月九日夜更刻小泉川出杉宿より出火寺丁同連焼る ○同日杉人坂大園寺

昭和九年の災後廢りしを今も再興の企有りて本堂を建敷如來毘沙門天を安置

○川口善光寺本堂重修成就 ○神代文字考一卷構成 崔孝成  
編輯

累家風も昔小順ひ百穀豊饒ありて都部の良賤閑を獲る事なきを哀殊小快樂哉

○川口善光寺本堂重修成就 ○神代文字考一卷構成 崔孝成  
編輯

累家風も昔小順ひ百穀豊饒ありて都部の良賤閑を獲る事なきを哀殊小快樂哉



亦 東古の事乃とも甚くあつたの存も之の神奈佛會或啓會の場も賽も  
 二 及此お撲の編綴一花樹も或は梨園も遊ひも市井の書聲も避け多麻川も年魚  
 を故に橋あふ坪路を忘れ真間も丹楓を賞もてハ詩を賦一秋を詠一斜陽を惜む  
 氷草も砂も浪実もこれ昇平の所恩澤もて造次頼師忘る事なくこそ

あつたのいふこともあつたぬんもあつたぬやもあるは代めくもよ 枝直  
 筑紫の海をそのすもれまきうけて浪もぬ世も清くともけり 千花  
 いづちもあつていづちもあつたぬわさのけしあひもあつたぬ空河  
 ろりもあつたぬもあつたぬけしあひもあつたぬのあつたぬを 宗因  
 なすすれもあつたぬもあつたぬあつたぬあつたぬあつたぬ 桂山

嘉永改元戊申季冬穀且稿成

編者 森藤市左衛門幸成

武江年表卷之八畢

去歲獲仍せる前輯四巻の内備書の撰むるも有り自己の撰むるも多  
 べきなりあつたはきりる併をたふ尋く

一 三表 文禄二年小徳菴南の出會を北條五代記重上の出入ふあつて日本橋の  
 上と以來るふけりあつた末日本橋のそとがる前あり

同十表 梅花をそとるは妙國の石の由記の暗化の撰之品川も丸層の塔の  
 ありありの載されとももあつたぬ

同十七表 上野の地伊賀の上野小園とある唱へると記る説の非あり永禄年中  
 小茶家の分張帳もも上野の名もあつたり

同二十表 沢菴和尙の偶夫分南北も此夫を草若撰て文と書せり

同廿四表 細江孔額を撰て孔歎と書せり

二一表 伊丹右宗江戸砂子よりと左宗とあるは撰之藻屑物語も撰りて右  
 宗と改むべし

同五表 三とくとも古繪畫小よりとある記りこれのみごとくとも唱へて之記は砂子  
 小御供の意もあつたり

同十表 志保系為系板本撰りて系とあり

同二十表 惟豆花のあつたの小御書は撰りてはとあるは撰りてはと撰り  
 中より小御書の撰りてはとあるは撰りてはと撰り

同廿三表 當時江戸町敷子三百餘町と記り千七百餘町と改むべし

同廿五表 三浦倉屋尾後とありと記るは撰之撰十人小徳とて初代千二人あり

同廿六表 小宮本川通新堀出来人改所番新澤川只建と記せる様あり此時迄  
深川は今の宮年格の傍に年々中川には移されあり

三二表 坊上寺法鏡持物師推名伊藤吉寛不改むべし

同表 延宝三年の下ふし郊とあるべきは誤脱せり  
これらとくちゅうのさこと別記下り別記明の略と

同十二表 貞享の洪水より六郷格の統まりは月三年宮古月日十二日ある  
の水に頼りたるより一語一言ありあり

同十五表 善光寺を先長寺に改むべし

同十七表 江州田山寺を江州石津寺と改むべし

四ノ九表 縣宗知と改む懸とあるをり  
同十一表 英一葉禱世のあやの句ありや宮古の月と表せり

同十七表 富士初若者縁物とあるは保之為縁物不他と物に備字

此除尚温謐あらんも知るがうは度幾の月志の人その漏らう張補ひ  
得るをてやぬらんを張

庚戌季煉あつひあるに

右輯四卷備書 宮城呂成

齋藤長秋居士編述

### 江戸名所圖會

上帙十冊  
下帙十冊

全二十冊出來

長谷川雪且先生画

齋藤長秋居士編述

### 江戸名所圖會拾遺

全十冊近刻

長谷川雪且先生画

齋藤月岑先生著

### 東都歳事記

全五冊

長谷川雪堤先生画

齋藤月岑先生著

### 聲曲類纂

全六冊

長谷川雪堤先生画

每歳ニ江府ニテラユル神事佛會並貴賤ノ風俗マテ  
四時ニ分チ記シ遠邦他郷ノ人ヲシテ江戸ノ歳時ノ  
盛ナルヲ知ラシメントスコレニ加フルニ花鳥雪月ノ佳境  
ヲ載ス多クハ郊外ニアリトイヘドモ江城ノ良賤並  
ヲ運ブノ勝區ハトモニ記シテ遊觀ノ助トス  
淨瑠璃節ノ世ニ行レシヨリ流洑ノ分レタル年代ヲ探リ  
アツム巻首ニ系圖ヲノセ概畧ヲシラシム小野於通ガ傳  
三味線ノ権輿ヲ詳ニシマタ寛永正保ノ頃古圖ヲ徵ト  
シ末曲節ノ名目伊勢音頭湖末節大盡舞四竹ホ  
ニ至ル迄委レクソノ由未ヲ記ス

嘉永三年庚戌十一月刻

大坂心齋橋北久太郎町

河内屋喜兵衛

同心齋橋通博勞町

河内屋茂兵衛

同心齋橋通安堂寺町

秋田屋太右衛門

發行書林

江戸日本橋通二丁目

須原屋茂兵衛

同 浅草茅町二丁目

須原屋伊八版

發行

京都三條通升屋町

大坂心齋橋筋北久太郎町

同心齋橋筋安堂寺町

江戸芝神明前

同 日本橋通二丁目

同 横山町三丁目

同 本石町十軒店

同 神田旅籠町二丁目

同 大傳馬町二丁目

同 日本橋通二丁目

同 日本橋通二丁目

同 日本橋通四丁目

同 神田通新石町

同 浅草茅町二丁目

出雲寺文次郎

河内屋喜兵衛

秋田屋太右衛門

岡田屋嘉七

山城屋佐兵衛

和泉屋金右衛門

英屋大助

紙屋徳八

丁子屋平兵衛

須原屋茂兵衛

須原屋新兵衛

須原屋佐助

須原屋源助

須原屋伊八

書林

